

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立植水中学校）

学校番号 238

【様式】

目指す学校像	わかる授業 明るい学級 挨拶と歌声響く学校		
重点目標	1 指導法の工夫・改善を通し、学力の向上を図る 2 健康教育（学校保健・学校安全・防災教育等）の充実を図る 3 地域と連携した教育活動を推進する 4 基礎体力と機動力のある職員組織を構築する ※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。		

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和7年2月12日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果は、前年度と比較して全般的に底上げされたものの、数学において、基礎的な知識・技能の分野に課題が見られた。 ○全国学力・学習状況調査における国語・数学・理科の「勉強は好きですか」の問いに対して肯定的な回答が低い。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、数学の問題に取り組む「朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が約75.6%であった。 (課題) ○全国学力・学習状況調査において、数学の無答率が全国平均より高く、基礎学力の定着及び活用する力に課題がある。 ○数学を含めた学習への苦手意識が依然として高く、生徒の興味・関心を育てる必要がある。	・朝学習における数学の学習活動の継続的取組	①朝学習において週に1度、数学のスタディ・サプリを活用し、生徒個々の理解度に合わせた学習を進める。 ②朝学習で取り組んだ学習の単元や正答率を記録させ、生徒の取組状況を視覚的に捉えさせることで学習習慣の定着を図るとともに、教員が進捗状況と理解度を確認し、個々に指導援助する。	①朝学習における生徒個々のスタディ・サプリの取組状況が予定通り進行しているか。 ②学校評価生徒アンケート「（数学の問題に取り組む）朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加するか。	①昨年度に引き続き、毎週水曜日の朝学習の時間に数学の問題を配信し、計画どおり生徒に問題を取り組ませることができた。 ②生徒にとって朝学習の取組が定着し、肯定的な意見は+2.7%増加した。また、全国学調の結果、図形に係る正答率が全国を大きく上まわった。	A	朝学習で数学の問題を継続的に行っていくことは学力向上に意義があるため今後も引き続き取り組んでいく。生徒が苦手としている「数と式」等の問題を重点的に行うなど工夫する。また、他教科においても基礎学力を身に付けるための工夫を検討し、生徒個々に適した取組にしていく。	朝学習を活用した数学の取組が生徒の定着に繋がったことはたいへん素晴らしい。スタディサプリの取組がよい取組として他校に紹介されたことも高く評価できると思う。勉強は好きですが、朝学習で関心が高まったなど肯定的な意見が高いが学力とどのような関係があるのか研究すると良いのではないか。数学の成績が芳しくない原因として問題を正確に読み解く力に難があるのではないか。ベースはやはり国語力だと思うので、国語教育にも力を入れていくと良いのではないか。
		・個別最適な学習の充実。数学の授業における習熟度別授業等、授業の工夫改善	①数学の基礎コースにおいて、反復練習を重点的に実施し、基礎学力の定着を図る。また、数学の発展コースにおいて、基礎学力を活用する練習を増やし、学習意欲をさらに向上させる。 ②数学の授業以外においても、自分の考えを発表する場面を増やし、学習への興味・関心を学校全体で高める。	①問題の正答率が年間を通して向上しているか。 ②学校評価生徒アンケート「授業で自分の考えを発表することができるか」の肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①正答率の向上は見られなかったものの、年間を通して約70%の正答率を維持している。 ②各教科とも校内研修等で授業改善について研修し、授業で生徒が自分の考えや発表をする場面を工夫し、意図的、計画的に実践を行ってきたが、肯定的な意見は昨年度比-6.9%と減少した。	B	基礎コースにSAを配置するなど行い、より細かく生徒一人ひとりへの指導助言を行うことができたが、生徒個々の課題を掘り下げ取り組むことが今後の課題である。 「生徒が考え、発表する場面の設定」については場面を増やすだけではなく、どのような工夫が効果を上げるのか研究を行う必要がある。	
2	(現状) ○学校評価生徒アンケート「学校での生活は毎日楽しく充実していますか」「友達と仲良くしようとしていますか」の問いに対して肯定的な意見が95%を超えている。 ○学校評価生徒・保護者アンケートのいじめ撲滅の項目については、肯定的意見が他の項目に比べやや低い。 ○防災教育生徒アンケートより、災害に対する意識が高くなったものの、実践する自信が持てていない。 (課題) ○小学校からの人間関係に縛られ過ぎないよう自己理解、他者理解を深める指導が継続的に必要である。 ○生徒の防災に関する実践力を高め、地域に貢献できる人材を育成する必要がある。	・きめ細やかな指導と生徒指導・教育相談体制の充実	①生徒の些細な変化について注視し、迅速に対応する。 ②報告・連絡・相談・見届けを徹底する体制を強化し、組織的に対応する。 ③ICTを活用して情報を共有し、適切なタイミングで支援、相談を行う。	①学校評価生徒アンケート「困ったときなど、必要に応じて先生に相談できるか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。 ②組織的な生徒指導・教育相談が機能しているか。	①各教員が積極的に生徒とのコミュニケーションを図り、相談等にもこまめに対応した結果、肯定的な意見が+4.7%と大幅に増加した。 ②生徒指導教育相談委員会では情報の共有で終わらず、学年だけではなく、学校全体でどう対応するかを検討する場となるよう工夫し、組織的な対応が機能した。	A	生徒と教員の信頼関係が向上してきたため、生徒が安心して居心地のよい環境を作り出すための手段を考える。solaルームも設置し、運営を開始することができた。 生徒指導教育相談委員会が情報共有の場ではなく、対応策を練る場とし、学年を超えて機動力のある組織体制を更に固めていく。	いじめ撲滅は生徒・保護者・地域・教師の信頼関係の充実を保つことが重要である。生徒の変化に気付く教職員の意識改革が肯定的な意見の+4.7%に現れていると思います。防災訓練や人間関係においても主体的に自分がどうすれば良いか自覚を持たせる訓練が必要だと思う。自立し他者を思いやる姿が見られるようさらに、指導は深める必要ありと見受けられる。地域社会の一員でありたいといった自覚、願望が強い年代であり（半分大人）、災害発生時の支援パワーとしても期待できる。
		・防災教育の活用と地域との連携	①今年度もこれまでの取組を継続し、全生徒が応急手当の方法等を実践する機会を設ける。 ②避難場所運営訓練において、生徒が中心となって避難所運営が送れるように実践を意識した訓練に取り組む。	①生徒が普段から災害に対する意識を持って行動している様子が見られるか。 ②自治会との連携活動を実施し、地域と協働した活動を行うことができたか。	①防災に関する取組を学年別を実施し、日頃から意識を持たせるよう声掛けなどを行ったことで、約94%の生徒が防災に関する意識が高まったとアンケートで回答した。 ②避難所開設運営訓練では、地域の方と一緒に訓練を実践したことで交流も深め、地域に貢献する意識も高まった。	A	総合的な学習の時間においても防災について学習する時間を設定した。応急手当について授業も実施した。教職員の普及員を来年も増員する。 今年度は避難場所開設運営訓練に生徒が参加して実践できた。来年度も引き続き、生徒が主体的に参加できるような工夫をする。	
3	(現状) ○一昨年度から植水小学校と合同で学校運営協議会を開催し、学校と地域の協働体制について熟考を重ねた。 ○取組を再考しながら、地域と連携した取組をさらに充実させていく。 (課題) ○新型コロナウイルスの5類移行に伴い、地域との連携の充実を図る必要である。 ○学校の取組や地域との連携などを、保護者等へ周知・理解をさらに広めていく必要がある。	・目指す生徒像の姿を体現するための地域連携行事の推進	①「輝き事業」や「読書会」等、大宮南高校や大宮光陵高校と連携した取組を継続するとともに、地域の特性を意識し、地域と連携した取組を実施して、生徒の地域への関わりに対する意識を高める。	①学校自己評価アンケートの生徒と地域との関わりについての項目において、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①輝き事業として保護者の協力のもと、1月に学校内及び周辺の清掃活動を実施した。西区ふれあい祭りや読書会、青少年育成会等の行事に参加し、地域の中で生徒は活躍することができた。学校評価では地域や保護者からの願いを受けて取り組んでいるとの評価を昨年度比+4.7%多くいただいた。	A	地域行事に参加するだけではなく、意見や感想を述べるなどの機会を経て、生徒達の成長の場を設定していただいた。卒業後を見据え、高校や地域との連携や機会を学校行事の内容精選を踏まえ、更に検討していく。小中学校の連携行事の設定が課題である。	地域の特性を生かした大宮光陵、大宮南との連携した取組の継続はぜひ続けていくとよい。学習やクラブ活動、生徒会活動へも広げられたら良いのではないか。西区ふれあい祭り、青少年育成会行事への参加等さらに取組をすすめていくとよい。そして次世代を担う子供たちには地域を愛する子どもたちであってほしいと願う。
		・地域連携活動や学校運営協議会の活動についての広報	①学校公開など、学校の活動を地域へ公開する機会を増やし、教育活動を保護者・地域と情報共有する。学校だよりやホームページ等で活動の様子を紹介し、情報を広く発信する。	①学校評価保護者アンケート「たより等により生徒の学習・生活の様子をわかりやすく知らせている」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①学校HPや学校だよりを見やすい分かりやすいものとなるよう工夫した。生徒の活動の様子を情報更新した。学校評価において肯定的な意見が約93%で昨年度とほぼ変わらなかった。	B	HPの更新スピードを高め、更に情報が伝わりやすいものにしていく。また、学校公開等の機会を増やすだけではなく内容についても検討する。	
4	(現状) ○服務についての意識は比較的高く、業務に協力して取り組む姿勢があり、互いにフォローし合う職場環境が比較的整っている。 ○ICTに精通した職員が増えてきたが、現状はエバンジェリストに負担がかかっている。 (課題) ○教員の年齢構成が二極化しており、若手教員及びミドルリーダーの育成が急務である。 ○授業において、生徒が学習内容を理解しやすくなるためのICTの活用方法を研究する必要がある。 ○小規模校における校務分掌について、業務改善が図れるよう見直しをする必要がある。	・教員としての自覚を持った行動と働きやすい職場環境の改善及び授業力の向上	①教員間における協力体制等を含めた服務研修を学期に1回以上実施し、協力体制のさらなる強化と若手教員育成の環境を整える。 ②年間を通して生徒の学力向上を目指して、ICTを有効活用した授業を相互に公開する。 ③キャリアナビ等を活用し、指導力向上に向けた研修に取り組む環境を整える。 ④教員一人ひとりが、勤務時間外在校時間だけにとらわれず、必要な業務を精選する。	①全職員の勤務時間平均値が昨年度から減少しているか。 ②学校評価教職員アンケート「植水中学校は働きがいがあり、働きやすい職場か」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①教職員がToDoリストを活用し、実践したことだけではなく、管理職が指導助言を行い業務の効率化を図ることができた。しかし、年間在校時間が、昨年度より増加した。教職員の意識改革をさらに進めていく。 ②各種委員会、校内研修等において、教員同士で意見を出し合い、立案、実行することとおして、教職員の同僚性が高まった結果、職場環境はおおむねよい。学校評価職員アンケートでも、肯定的評価が100%となり、昨年度より増加した。	A	時間外在校時間の減少に意欲的に取り組む教員が多くなり、意識改革は進んだ。しかし、まだまだ課題である。絶対的に教職員数が少ないので業務の精選について検討する場や機会を増えたことが大きな成果である。校務分掌の配置バランスだけではなく、業務内容の精選をさらに進めていく。 ICTを効果的に活用した授業について授業を参観しあうなど、協力体制を確立することができた。さらに同僚性を高め、一枚岩となり業務に取り組んでいく。	経験豊富な管理職・ベテラン教師等を活用し、指導の向上に向けた研修に取り組む。校内研修等において教員同士で意見を出し合い、立案実行することで良い学校づくりができる。小規模校における校務分掌の効率化については検討課題である。

